

公益財団法人京都伝統産業交流センター

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 渡邊隆夫

2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1 京都市勸業館内

3 電話番号

075-762-2670

4 ホームページアドレス

<http://kmtc.jp> (京都伝統産業ふれあい館)

5 設立年月日

昭和52年3月29日

6 基本財産

11,000千円 (うち本市出せん額 5,000千円, 出せん率 45.5%)

7 事業目的

伝統産業の啓発及び振興に関する事業を行い、地域経済の発展と生活文化の向上に寄与すること。

8 業務内容

- (1) 京都市勸業館常設展示場の展示事業
- (2) 伝統産業に関する振興及び啓発事業
- (3) 伝統産業製品の提供事業

9 所管部局

産業観光局商工部伝統産業課 (TEL075-222-3337)

10 役員名等

(1) 理事長

渡邊隆夫

(2) 副理事長

田中雅一

(3) 専務理事

早水督

(4) 理事

木村泰士, 森俊次, 佐藤敬二, 雁瀬博, 小嶋俊, 辻智之, 林史己, 細辻伊兵衛, 長谷川浩一, 草木大 (産業観光局商工部長)

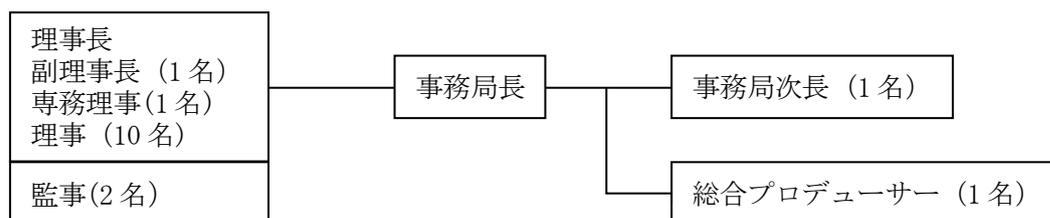
(5) 監事

藤井正昭, 松田聖

11 常勤職員数

8人 (うち本市派遣職員2人)

12 組織機構



第2 経営状況

1 平成30年度決算

(1) 事業報告

ア 京都市勧業館常設展示場の展示事業

京都市内の伝統産業について体系的に紹介する施設として設置された「京都伝統産業ふれあい館」(以下「ふれあい館」という。)の管理運営を行った。【年間来館者数：169,483人】

(ア) 常設展示

a 団体での見学者を対象とした解説【団体数：109団体、対象者数3,665人】

b 展示品入替え【展示替回数：110回、入替品数：700点】

c 展示場内放映用映像の制作

現在、展示場内で放映中の映像で取り上げられていない京和傘について、立命館大学映像学部と共同で映像を制作した。

(イ) イベントルーム

関係団体との共催事業及び常設展示との相乗効果が期待できる展示会等を実施した。

【実施事業数：37事業】

(ウ) ギャラリー

当財団単独主催又は関連業界団体等との共催により企画展を開催した。

【実施事業数：9事業】

(エ) 図書室の運営【貸出書籍数：282冊】

(オ) 特別展の開催

開催期間	催事名
8/1～9/30	芸妓舞妓のよそおい展
2/9～2/24	茶碗の中の百人一首展

(カ) 特別イベントの開催

「京まふ2018」等ふれあい館周辺で開催された大規模イベントとの連動企画や企業等との共同企画を実施した。

イ 伝統産業に関する振興及び啓発事業

(ア) 伝統工芸品制作体験教室【体験者数：3,634人、体験料収入：4,006,870円】

(イ) 「匠と舞」事業

a 匠ふれあい事業

(a) 常設展示場内における職人実演【実演職人延べ人数：567人】

(b) 各種イベント等への職人派遣【イベント数：24、派遣職人延べ人数：80人】

b 芸舞妓舞台【舞妓舞台：16回開催、芸妓舞台：12回開催】

(ウ) 工房訪問事業

京都を訪れる方に、より深く伝統産業の魅力を知ってもらい、伝統産業製品の購入につなげるため、工房訪問を希望する方と工房とを当財団がマッチングする仕組みを「京都工房コンシェルジュ」として構築し、平成28年度から本格実施している。

【利用人数：1,931人、利用件数558件】

(エ) ふれあい館サロン

職人と他業種の方との交流会を開催した。

【開催回数：6回、参加職人延べ人数：89人】

(オ) 京ものユースコンペティション事業

若手職人の研鑽と露出の機会の創出を目的として実施した。

応募期間	平成30年9月1日(土)～10月31日(水)
応募者数	12名
受賞者	グランプリ1名、準グランプリ2名

(カ) 宿泊・商業施設等との共同企画の実施

(キ) 伝統産業に関する講演会の実施

ウ 伝統産業製品の提供事業

現代の人にとって敷居が高くなりがちな伝統産業製品を身近に感じてもらえるよう、オンラインショップ「京もの専門店みやび」を運営するほか、京都迎賓館や二条城のオリジナルグッズ、会議やイベントで出席者に配られる記念品として伝統産業製品の販売に取り組んだ。

【売上実績】 (単位：円)

オンラインショップ等	7,154,235
実店舗出展	651,080
常設展示・実演販売	3,453,273
記念品（特別注文）等	27,459,551
合計	38,718,139

エ 広報活動

(ア) SNS 及び口コミサイトの活用

(イ) 観光業界への情報提供

(ウ) 他施設及び他団体との連携

(2) 財務諸表

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	32,873	25,148	7,724
未収金	8,385	11,180	△2,795
立替金	611	42	570
前払費用	493	474	19
流動資産合計	[42,362]	[36,843]	[5,518]
2. 固定資産			
(基本財産)			
定期預金	11,000	11,000	0
基本財産合計	(11,000)	(11,000)	(0)
(特定資産)			
退職給付引当資産	3,008	2,045	963
賞与積立資産	645	643	2
特定資産合計	(3,653)	(2,688)	(965)
(その他固定資産)			
出資金	5,000	5,000	0
什器備品	790	914	△123
電話加入権	80	80	0
ソフトウェア	151	203	△52
図書	8	8	0
その他固定資産合計	(6,029)	(6,204)	(△175)
固定資産合計	[20,682]	[19,892]	[789]
資産合計	63,044	56,736	6,308
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,500	2,874	625
賞与引当金	645	643	2
預り金	5,360	7,209	△1,850
仮受金	64	789	△726
未払法人税等	905	701	204
未払消費税等	1,663	2,023	△361
流動負債合計	[12,135]	[14,240]	[△2,105]
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,008	2,045	963
固定負債合計	[3,008]	[2,045]	[963]
負債合計	15,143	16,285	△1,142
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
京都市出えん金	5,000	5,000	0
指定正味財産合計	[5,000]	[5,000]	[0]
(うち基本財産への充当額)	(5,000)	(5,000)	(0)
2. 一般正味財産	42,900		
一般正味財産合計	[42,900]	[35,451]	[7,450]
(うち基本財産への充当額)	(6,000)	(6,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(3,008)	(2,045)	(963)
正味財産合計	47,900	40,451	7,450
負債及び正味財産合計	63,044	56,736	6,308

正味財産増減計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:千円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1	101	△100
特定資産運用益	0	0	0
事業収益	17,966	15,878	2,088
受取補助金等	55,331	54,432	899
雑収益	686	778	△93
経常収益計	73,983	71,189	2,794
(2) 経常費用			
事業費	57,857	55,567	2,290
管理費	7,772	7,498	274
経常費用計	65,628	63,064	2,564
当期経常増減額	8,355	8,125	230
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	8,355	8,125	230
法人税, 住民税及び事業税	905	701	204
当期一般正味財産増減額	7,450	7,424	26
一般正味財産期首残高	35,451	28,027	7,424
一般正味財産期末残高	42,900	35,451	7,450
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	5,000	5,000	0
指定正味財産期末残高	5,000	5,000	0
III. 正味財産期末残高	47,900	40,451	7,450

2 令和元年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 京都市勧業館常設展示場（京都伝統産業ふれあい館）の展示事業

- (ア) 常設展示の管理運営
- (イ) イベントルームの活用
- (ウ) ギャラリー展の開催
- (エ) 特別イベントの開催

イ 伝統産業に関する振興及び啓発事業

- (ア) 伝統工芸品制作体験教室の開催
- (イ) 匠ふれあい事業
 - a 常設展示場内における職人実演
 - b 各種イベント等への職人派遣
- (ウ) 工房訪問事業「京都工房コンシェルジュ」の運営
- (エ) ふれあい館サロンの開催
- (オ) 京ものユースコンペティション事業
- (カ) 伝統産業に関する講演会の実施

ウ 伝統産業製品の提供事業

オンラインショップ「京もの専門店みやび」を運営するほか、観光施設のオリジナルグッズ、会議やイベントで出席者に配られる記念品として伝統産業製品の販売に取り組む。

エ 広報活動

- (ア) SNS 及び口コミサイトの活用
- (イ) 観光業界への情報提供
- (ウ) 他施設及び他団体との連携

オ 京都市勧業館常設展示場（京都伝統産業ふれあい館）リニューアルに向けた準備

(2) 予算

正味財産増減予算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	2	△2
特定資産運用益	0	1	△1
事業収益	11,809	10,209	1,600
受取補助金等	56,440	56,173	267
雑収益	61	127	△66
経常収益計	68,310	66,512	1,798
(2) 経常費用			
事業費	60,200	58,253	1,947
管理費	8,110	8,259	△149
経常費用計	68,310	66,512	1,798
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	35,451	28,027	7,424
一般正味財産期末残高	35,451	28,027	7,424
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	5,000	5,000	0
指定正味財産期末残高	5,000	5,000	0
III. 正味財産期末残高	40,451	33,027	7,424

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	78,720	71,189	73,983	68,310
	当期経常増減額	5,580	8,125	8,355	0
	当期正味財産増減額	5,580	7,424	7,450	0
貸借対照表	総資産	51,846	56,736	63,044	
	総負債	18,819	16,285	15,143	
	正味財産	33,027	40,451	47,901	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (予算)
委託料	京都伝統産業ふれあい館運営	25,000	24,000	24,000	
	京の「匠」ふれあい事業	3,950	3,500	4,000	
	京都伝統産業ふれあい館を核とした新たな伝統産業振興事業	22,600	20,000	19,798	
	「京ものユースコンペティション」に係る企画・運営業務	2,600	1,000	1,000	
	ふれあい館魅力向上策検討プロジェクト	2,000			
補助金	京都市伝統産業振興事業補助金	5,436	5,932	6,533	6,800

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から4期連続で、当期正味財産増減額の黒字化を達成しており、財務面の安定性は評価できる。 また、伝統工芸品制作体験教室については、参加者数が昨年度比で10.7%増加し、積極的な取組が行われている。 なお、オンラインショップの売上は4.8%の減少したものの、記念品受注については昨年度と同等の売上を維持しており、評価できる。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が1,931名と昨年度比230%の伸びを見せている工房訪問事業「京都工房コンシェルジュ」をはじめ、伝統工芸品制作体験教室や団体の見学者も堅調に推移しており、大いに評価できる。 また、世界最大の旅行口コミサイト「トリップ・アドバイザー」において昨年度の国内の無料施設ランキング第5位に続き、国内の美術館・博物館第5位に選ばれるなどインバウンドへのきめ細かな対応の成果も出ている。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none">オンラインショップや記念品受注等，伝統産業製品提供事業は好調を維持している。4期連続で当期正味財産増減額の黒字を達成しており財務面では問題ない。
事業面	<ul style="list-style-type: none">運営する京都伝統産業ふれあい館が令和2年3月のリニューアルに向けた工事を行うため，令和元年10月から閉館する予定である。閉館期間中もオンラインショップ等で収入を確保するなど閉館の影響を最小限に抑えることが重要である。また，リニューアル効果を最大限に発揮するため，再オープンに向けた魅力的なイベントや展示等の企画に取り組んでほしい。